神奈川・日吉小学校でマナーキッズテニス教室

テニス教室と礼法のコラボに小学6年生64人参加

NPO法人マナーキッズプロジェクト（田中日出男理事長）が推進する「マナーキッズテニス教室」が6日、神奈川・日吉小学校で開かれた。子どもたちにテニスを楽しんでもらい、あいさつや礼儀作法など基本的マナーの習得、スポーツマンシップの体得、文武両道で世界に通用する人材育成を視野に入れている。テニス教室と小笠原流礼法のコラボレーションとは一体どんなものなのか。

興味半分戸惑い半分

体操着に着替えた小学6年生64人が続々と体育館にやってくる。テニスネット8張りがセットされ、小さめのラケットとスポンジボールが用意されている。「一体何が始まるのだろう」と興味半分、戸惑い半分。日吉小での開催は初。体育と道徳の時間をあてた。開講式はまず整列することから。なかなかすんなりとはいかない。ようやくできたところで、受講者の代表が前に進み出て「おはようございます」「よろしくお願いします」とあいさつをする。声が小さいと何度も繰り返す。

マナーキッズプロジェクト理事長でディレクターの田中日出男氏（67＝写真）は「今の子ども、若者の状況がおかしいと多くの人が感じるようになってずいぶん時間がたちます。あいさつや礼儀など人間としての基本的なマナーやルールに欠けています。この教室はテニスをツールにしていますが、基本はあいさつやルールを身につけること。自分たちの世代が子どもをきっちり育てなかったツケがきているわけですから、罪滅ぼしでやっています」と話す。

教室が始まる。いきなり小笠原流礼法鈴木万亀子総師範（＝常任理事、本部教授）が登場し「マナーとは」「正しい立ち方」「正しいお辞儀の仕方」「あいさつの仕方」「やさしい顔をして相手を見る」「手の位置」などを伝授する。チームに分かれて早速実践する。声を張り上げる子、まだ恥ずかしがる子と差はあるものの、徐々に浸透していく。

いよいよテニスのレッスン。コートごとに一列に整列し、指導員に「よろしくお願いします」、終わった後は大声で「ありがとうございます」。ストローク、ボレー、スマッシュ、サーブと続く。指導者は極力「ナイスショット」「うまい」「上手」とほめる。

ラリーを何球続けられるかという練習では、始めは3本続けることを目標にして、達成するとコーチと握手し報告を行う。あとは個人ごとに目標を自己申告させて、達成すればまた握手して報告する。自分で目標を設定しているので、挑戦意欲が強くなる。

家庭内のしつけ必要

約1時間40分後、ぞうきんがけをして整理体操。修了証書を受け取る子どもたちの背筋はピシッと伸び、笑みが浮かんでいた。お世話になった人たちにあいさつと握手をしてすべて終了した。鈴木総師範は「短い時間でしたが、ずいぶん変わったと思います。声を大きく出すことで、元気になるし、笑顔にもなる。心まで前向きになったことでしょう」と話した。これを根付かせるのは家庭内のしつけが必要になる。同校では4日間で全校生徒687人が受講する。

1時間40分後、背筋ピシッと伸び笑顔で修了証書

しっかりとあいさつをしながらテニスに取り組む生徒とボランティアの指導員たち

体育、徳育、知育

マナーキッズとは

マナーキッズプロジェクトのプログラムは、子どもの体力、運動能力の低下に歯止めをかける「体育」、あいさつ、礼儀作法の基本的マナーとスポーツマンシップを習得させる「徳育」、運動で知性をはぐくむ「知育」を考慮して組まれており、すでに実施した全国各地の幼稚園、小学校から高い評価を受けている。テニス教室のほかミニバスケットボール、サッカー、柔道、スナックゴルフなどスポーツの領域が広がっている。